

その他の事業のその他におけるその他の環境等を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労働 者規 模
1	13～ 14	道の駅の身障者駐車場横で、ハンドラッセルを使い除雪作業をしていたところ、地面がアイスバーンになっていたため足を滑らせ転倒し、右手をついた。	62	10～ 29
1	16～ 17	被災者は、交差点の横断歩道にて、路面が凍結していたため尻もちをつく形で転倒し、左手をついた際に骨折した。	70	—
1	14～ 15	屋外駐車場にて、車から降りて3、4歩で右足が雪に滑りバランスを崩し、更に着地した左足も滑ったことで転倒し、右手に全体重をかけたため負傷した。	59	1000 ～ 9999
1	5～6	荷物を車に乗せ、車の後部座席に乗って走行中、路面凍結のためタイヤがスリップし建物に衝突し負傷した。	61	50～ 99
1	14～ 15	地籍簿作成業務の測量作業中、測量器機を両手で抱えて移動していた際、足元の蔓に足を引っかけてしまい転倒し、測量器機を抱えていたため手をつくことができず、地面に腰を打ちつけてしまい負傷した。	73	50～ 99
1	11～ 12	事務所前の道に設置してあった看板が、風で倒れて、事務所に車が入ってくるのに邪魔なので、その看板をどかそうと、看板を持ち上げたところ、急に突風が吹き、看板ごと吹き飛ばされて転倒し負傷した。	63	1～9
1	8～9	出勤時敷地内に凍結箇所があり、足を滑らせ転倒し、手をついた際に骨折した。	66	—
1	11～ 12	営業活動時（歩行中）に、道路にて、路面凍結により転倒し、後頭部を打ち、出血を伴う怪我を負った。	67	30～ 49
1	21～ 22	営業先のお客様宅に向かう道中の駐車場を歩いている際、暗闇の中、地面が凍結していることに気づかず、足を滑らせ、首からかけていた携帯端末が脇に挟まり、そのまま転倒し、胸を強打した。	44	100 ～ 299

1	9～ 10	郵便局に行くため近くの駐車場に車を停め、車から出て2～3歩歩いたところ、雪が凍っていたため滑って転び、右足首を骨折した。	67	—
2	19～20	勤務事業所建物隣接の駐車場で、社屋横隣にある駐車場に営業車を駐車し社屋に戻る為、車道を横断しようとした時、車道及び隣接する歩道が、積雪・気温低下による凍結状態、いわゆるアイスバーンの状態であった。アイスバーン状態の路面で左足を滑らせ転倒し、左腰部を強打した結果、左足大腿部頸部を骨折した。	51	—
2	14～15	入口付近にて、資料を事務所内へ持ち込もうとする際に転倒し、右足首をひねり、骨折した。関節の骨折であり、手術入院リハビリがある為、休業となる。事故時は、来客もある場所の為、氷も割りゴザ、ムシロ、マット等で滑り止めの措置はしてあったが、ムシロのある場所以外を歩き転倒してしまった。	32	—
2	18～19	徒歩で移動中、積雪の徒歩が不慣れの為、作業終了後タクシーに乗車しようと徒歩で移動中、積雪に足を取られ転倒しそうになり左足で強く踏ん張りふくらはぎを痛めた。	44	—
3	7～8	作業車両のエンジンを始動するのに、当該車両に行く途中、路面凍結により転倒し負傷した。	49	30～ 49
3	11～12	被災者は検針作業を行うため、隣家との間に硬く積もった高さ約1mの雪山を歩行中、足元が滑り地面に転落し、右上腕部を受傷した。	42	100 ～ 299
3	18～19	ヘルパー出張先の牛舎で搾乳作業中、暴れる乳牛の頭を固定しようとした際に、乳牛の頭と柵の間に右手小指が挟まった。	59	10～ 29
3	16～17	学童保育室内で掃除をしている児童の指導中、忘れ物を取りに児童が戻ってきたため対応していたところ、床の雑巾がけをしていた児童が右後方より右足元へ突っ込んできて、避けきれず転倒した。痛みはあるが様子をみながら勤務していたところ、腫れと痛みがひかず、骨折と判明した。	55	1～9
3	17～18	病院の処置室内において、処置台の上で猫の処置をしている最中に、リードでつなぎ床で待機させていた犬に足を噛まれた。	34	10～ 29

4	13～ 14	レース発走のため競走馬をゲート内へ枠入れ作業中、当人が競走馬の後方より馬具を使って促していたところ、競走馬が不意に後退して蹴り、当人の右肘に当たり負傷した。	26	30～ 49
5	18～ 19	第8レースにおいて、ゲート内に馬が入った後に、ゲートの扉を閉めようとした際にゲート内にいた馬の後肢で、左足膝を蹴られ裂傷と打撲を負った。	45	50～ 99
5	10～ 11	エレベーターで36階の会場へ移動中に耳鳴りがし、頭痛、吐き気を感じた。しばらくすると右耳が聞こえなくなった。	34	1～9
7	10～11	牛舎にて、牛の耳標確認作業をしていた際、耳標が汚れていたため、牛の鼻輪をつかんで確認していたところ、牛が暴れ、鼻輪をつかんでいた右手を柵に挟んだ。右手の腫れがひかず、骨折と診断された。	29	10～ 29
7	9～ 10	出入り口付近にて乳用牛をパドック内から草地へ放牧作業中、複数の乳用牛が突如暴れ出し、被災者に向かって走り出したため、パドック外側へ逃げようとしたが間に合わず乳用牛に突き飛ばされ、頭部をパドック柵へ打ち付け、頭部、首、胸部などを負傷した。	66	50～ 99
7	15～ 16	馬車の練習中に運転手（御者）として勤務。馬が道路脇の法面を下ってしまった際に座席から振り落とされ地面との接触の際に足を受傷した。	36	10～ 29
7	14～ 15	家畜診療所にて、体重概ね600kgの手術牛を係留場から手術室内へ左手に頭絡、右手に手綱を引いて搬入していた時に急に牛が走り出したので、頭絡を持ったままの左手で制しようとした際に牛が首を激しく振った為に手首を捻った。	41	300 ～ 499
9	11～ 12	病院内手術室にてパートスタッフ1名で半野良猫の体重測定及びノミ・ダニ駆除の為、ケージからネット内に移す際暴れ出し、取り押さえようとして右手の人指し指、手の甲、腕に複数回受傷、右手、人指し指に痺れが残る。本来、野良猫の管理は慣れたスタッフ2名で保護手袋を着用し行うものとされていたが、周知されていなかった。	36	1～9
10	8～9	当競馬場、当厩舎付近を、（牝2歳）の引き運動中、同馬が何かに驚き急に暴れた際に、右腕、右大腿骨を蹴られる負傷をしたものである。	47	1～9
10	12～	トリマー業務中に犬に噛まれ、大丈夫かと思っていたが、我慢できない痛みが	21	10～

	13	あった。右手小指第一関節を骨折していた。		29
11	9～ 10	LPガス消費者先の保安点検に向かうため降車した時に、路面が凍結していたので足を滑らせて転倒し腰を痛めた。	42	1～9
11	9～ 10	事務所2階入り口付近にて、被災労働者が廊下のコピー機に向かう際、清掃業者が床を水拭き清掃した後を小走りし転倒した。その場で動けなくなり、数分横たわった後、自力で着席し就業した。午後になり容態が良ならず、夕方体調が悪化し、社員2人同行して病院に連れて行った。	48	10～ 29
12	10～11	被災職員は当日、一人でフリーストール牛舎の牛床に消毒用のドロマイトを散布していたが、背後から牛に背中を頭部で押されて倒れてしまった。その後、牛の頭部で体を1mほど前の方へ押されたうえ、左肩甲骨のあたりを前足で押された。隙を見て向かいの牛床へ逃げたが、鼻血が出ており、左胸と左上1番の歯に痛みがあったので病院を受診した。	67	50～ 99
12	7～8	出勤後、着替えを終え作業場に向かう途中、屋外道路で路面が凍結していた為、すべって転倒した。その際に、右手をついて体をかばった為、右手首を骨折した。	58	1～9
12	20～21	帰宅時、就業先から自宅へ自家用車で向かうため、就業先ビル内の駐車場へ向かう通用口を出た際に、床が凍っていたため滑って転倒し、負傷した。当日は打撲程度で骨折とは思わず帰宅したが、翌朝、痛くなり腫れてきたので受診した。	39	50～ 99
12	21～22	就業中、雪の濡れたコンクリート床で滑り、膝をつき転び、半月板を痛めた。	30	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html